

## 5 地域コミュニティが進むべき方向性

### (1) 基本理念

本指針における基本理念は、「まちの憲法」と言われ、恒久的な白老町の最高規範として位置付けられている「白老町自治基本条例」の基本理念でもある



『しあわせを感じるまち』

の実現を目指すものとしします。

<参 考>-----白老町自治基本条例逐条解説より抜粋-----

(基本理念)

第3条 私たちは、まちづくりの主体として、自らの手で自らのまちを創っていこうとする意思を明確にし、考え行動することで、互いに支えあい、いつまでも安心して共に生き生きと暮らすことのできる「しあわせを感じるまち」の実現を目指します。

2 私たちは、前項の規定の実現に向け、平和を願い、環境を守り、次代を担う子どもたちを育み、学び、働くことを通じて、将来にわたりまちづくりに取り組みます。

【解説】

- ・本条では、この条例を貫く理念を規定しています。
- ・自分たちのまちは自分たちでつくる意思を明確にして、しあわせを感じるまちの実現を目指します。
- ・そのために、自分たちが主体となってまちづくりに取り組みます。
- ・「しあわせを感じるまち」は、総合計画基本構想で示す最終的なまちの将来像です。本条例の普遍的な理念として位置付けます。
- ・本条例は、この基本理念を実現するための制度的規範として位置付けます。

## (2) 地域コミュニティの目指す姿

- 人口減少・少子高齢化の進行などにより地域課題が多様化する中であっても、地域の様々な主体が、自らの意思と行動で「やりがいや生きがいを感じながら」まちづくりに参画することにより、住民誰もが「しあわせを感じる」日々の生活を送ることができる地域コミュニティの実現を目指します。
- 誰もが、安全で安心していつまでも暮らし続けられる地域を実現するために、地域コミュニティが目指すべき理想の姿・方向性を次のとおりとします。

### ① 多様な主体が参画する地域コミュニティ

- 様々な主体の参画を促進するためには、地域コミュニティに対する意識の啓発や、参画へのきっかけづくりが必要となります。
- 地縁（エリア）や、共通の趣味・関心（テーマ）など何かしらの関わりによる「縁」や「絆」を大切に、その結び付き（紐帯）を強弱含め維持・拡大することを目指します。
- 幼児から高齢者まで様々な世代や性別、国籍や立場などにも関わらず、また、社会的な少数派とされる方々も含め、それぞれに適した参加の仕組み作りを進めることで、誰もが気軽に参画できる地域コミュニティの実現を目指します。

### ② 情報を共有し、互いに助け合える地域コミュニティ

- 地域コミュニティとして多様な活動を展開するためには、活動内容の見える化や情報の周知などを積極的に行い、様々な主体が関心を持ち、目標や進むべき方向性を共有することが重要となります。
- 地域活動や行事・イベントの実施内容、結果についての情報発信が積極的に図られ、地域住民などが広く関心や愛着を持つ地域コミュニティを目指します。
- 情報の共有や、一人ひとりの意見を尊重することができるよう、日ごろからの交流・連携を積極的に行い、互いに助け合える地域コミュニティの実現を目指します。

### ③ 誰もが地域課題の解決に取り組む地域コミュニティ

- 多様な主体の参画、必要な情報や意識の共有を図ることにより、誰もが課題や問題を自分事と捉え、行動につなげることが必要となります。
- 幅広い主体が「できる分」だけ参画するなど、軽めの関わりを継続的に続けることが選択できる地域コミュニティを目指します。
- 自助・共助の精神で、多様な主体が自主的・自律的に地域課題の解決に取り組む、誰もが「しあわせを感じる」ことができるまちの実現に寄与する地域コミュニティを目指します。

### (3) 地域コミュニティ組織の在り方

- 現在、町内には100程の町内会がありますが、その会員規模は様々で、特に世帯数が少ない単位町内会においては、役員の担い手確保が困難な状況から、これまで同様の活動ができなくなるなど、組織の維持が困難な状況も見受けられます。
- 町民活動団体においても、高齢化などの影響により、組織の新陳代謝が進まない状況から町内会同様の問題が生じています。
- 町内会においては、隣接する町内会同士の連携のほか、合併や地区町内会連合会単位での活動促進、機能の一元化などが必要となり、また、町民活動団体においても、共通機能や役割の集約など、担い手不足に対応した組織の変革が必要と考えられます。
- 住民自治や地域活性化など主体的な活動を行う組織として、必要とされる共助の役割や組織運営機能を継続的に確保するために、地域コミュニティ組織の目指すべき理想の姿・方向性を次のとおりとします。

#### ① 持続的な活動を可能とする地域コミュニティ組織

- 人口減少などにより担い手の確保が困難な状況にあっても、持続的に活動を続けることができる組織運営が必要になります。
- 少子高齢化の更なる進行が見込まれる中において、町内会や町民活動団体においては、単体でその機能を果たすことが困難な事項も増えていくと推測されます。
- 隣接する町内会との連携や合併、地区単位での業務・機能の集約化を目指します。
- 町民活動団体においても、活動を維持継続するための資金や会員規模を保つべく、組織力の強化や上部組織等への機能集約を目指します。
- 役員が交代する場合にあっても、その経験やノウハウが円滑に引き継げる環境の整備や、組織として一定規模・機能を維持確保することで、持続的な活動を可能とする地域コミュニティ組織の実現を目指します。

#### ② 様々な連携により、課題解決を行う地域コミュニティ組織

- 地域課題の多様化・複雑化や組織力の低下などにより、これまでどおり単体では地域課題を解決することが困難な場面も増えていくと予測されます。
- 地域の暮らしを守り、持続可能な地域としていくため、NPOなど専門性を持つ町民活動団体との積極的な連携のほか、行政や様々な組織・団体、学校、事業所・企業なども含めた広域的・有機的な連携を模索します。
- 組織の枠を越えた人材や資金、ノウハウの活用を積極的に行い、課題解決を行う地域コミュニティ組織の実現を目指します。

### ③ 地域コミュニティを支える中間支援組織の充実

- 地域課題の解決、持続可能な地域づくりを進めるためには、ひとつの町内会のみならず、地区町内会連合会、町民活動団体やNPOなどの様々な組織、更には、行政、事業所・企業、学校などそれぞれが持つ機能や情報、資源などとの連携・融合を仲介し、サポートや調整を行う「コーディネーター」の存在が必要不可欠となります。
- 「白老町町民まちづくり活動センター」は、町民活動団体の相互交流と、町民に開かれた活動の場としての機能を果たすほか、協働のまちづくりの拠点となることから、中間支援組織として「コーディネート機能」などの充実を図ります。
- 地域コミュニティの持続的な活動を支援するため、地域コミュニティと様々な主体とのマッチングを図る仲介機能や、組織運営に係るアドバイスなど指導機能の充実を図ります。

